



運動会に向けて、5、6年リーダーを中心とした協働の学びによる班活動に力を入れています。

連学年合同で行う種目、なかよし班で行う種目、全校リレー班の練習等において、5、6年のリーダーを中心として協働の学びによる班活動に取り組んでいます。

行事を通してグランドデザイン「集団づくり（重点2）」具現化に向け、班活動を通して異学年集団におけるお互いを認め、支え、高め合える人間関係づくりをめざしています。

新たな取組として、音楽会に引き続き開閉会式も児童が司会・進行を務めます。子どもが主役の運動会をぜひご覧ください。



8/17 小谷村学校保健委員会 上川みずき先生講演会「生と性～セクシュアリティ教育」を行いました。

「心と体の健康づくり部会」（保小中合同職員会議）が、企画・運営した学校保健委員会では、上川みずき先生（村子育て支援センター助産師）を講師にお迎えし講演会を行いました。

- ・「自分の性や自分の身体を知ることが、自己肯定感を高め第一歩であること」
- ・これまでネガティブで恥ずかしいことと考えられがちだった性教育を、「ポジティブで重要なことと受け止める意識の転換が必要であること」
- ・2～3歳頃に性別の違いに気づいた時から性教育を始め、「継続的に続けることが自己受容や自己決定につながり、自分の心と身体を丸ごと受け止め自己肯定感を向上させるということ」等上川先生から様々な事例をもとに理解し、皆で学び合うことができました。



◇ 参加された方からご感想・ご意見(一部抜粋) ◇

- ・内容的に夏休み前に聞くことが出来れば、夏休み中に子どもへ話すきっかけになったと思う。
- ・たくさんの保護者に聞いて欲しい内容だったので、参観日等に設定できるとよい。
- ・自分の知識が間違っていたことに気づいた。大人も学び続け知識のアップデートしていくことの必要性を感じた。
- ・性の多様性や性の正しい知識を学校だけに頼るのではなく、家庭でも話す大切さを改めて感じた。
- ・幼児期から自然に自分の体に興味をもち、自分も相手も思いやる心を育ていけるよう、子どもとオープンに性の話ができる雰囲気家庭でも持ちたいと思った。学校教育にプラスして、家庭での教育の重要性を感じた。
- ・性については取り扱いにくいという印象がなかなか拭えずにいる。知識がないために間違った行為に及んでしまい自尊心が失われるという事態を避けるために、しっかり伝えていく必要があると感じた。
- ・LGBTQ+や性に関する問題が増えている中で、今後の性教育の在り方について考えるきっかけになった。
- ・子どもの周りにいる大人の対応が大切。知識をもって性の多様性を語る大人になれるようにしたい。
- ・コミュニケーション能力を幼児期から育み、自分を認め、相手を認められる子どもを育てる保育園でありたい。など

熊出没に対する対応 ～「児童の登下校について」(お願い)～

・絆メールでお伝えいたしましたように、村内各地域で熊が目撃されています。

今週中は徒歩通学であっても最寄りのバス停から路線バスに乗降車し、小学校で乗降車する通学方法に変更となります。バス停から自宅までの徒歩区間、千国の徒歩通学児童生徒は、集団での登下校や必要に応じて保護者の送迎による登下校をお願い申し上げます。